

第 29 回国際地図学会議

募金趣意書

第 29 回国際地図学会議組織委員会
委員長：森田 喬
(法政大学デザイン工学部 名誉教授)

第 29 回国際地図学会議
—ご挨拶と募金のお願い—

2019 年 7 月に東京で開催することが決定した第 29 回国際地図学会議は、国際地図学協会が 2 年（総会は 4 年）ごとに開催する国際会議であり、1962 年の第 1 回から当会議で 29 回目を迎える地図学分野では最も歴史と権威のある国際会議です。この会議の日本での開催は、1980 年の第 6 回の東京大会以来、39 年ぶり 2 回目となります。

地図学は、惑星から地球、そして人間をとりまく身近な空間まで、さまざまなスケールの空間を対象に、目的に応じて地図として効果的に表現する方法を研究する学問です。近年は、地図のデジタル化にともなって一般利用が進み、理論のみならず応用面でも長足の進歩を遂げています。地図学は、これまで我が国においては比較的应用面が先行していましたが、今後は基礎理論面での貢献も大いに期待されています。

この度の第 29 回国際地図学会議では、「地図づくりを、誰にもどんな事にも！」をメインテーマにして、アートと地図、アトラス、地図遺産、子どもと地図、災害地図、地図認知、地図学教育、総描、空間分析、空間情報、地図史、位置情報サービス（LBS）、地図デザイン、投影法、視覚障害者向け地図、インターネット利用、山岳地図、オープンソース GIS、惑星地図、標準化、センサー利用、地形図作成、地名、ユビキタスマッピング、地図利用、視覚化、などを主要課題として、研究発表と討論、および地図作品や機器の展示が行われることとなっています。

この会議を日本で開催することは、前回日本で開催された 1980 年以降のデジタル化にともなう地図の先進的な利用方法とそれにとともなう理論的發展を全世界の研究者に大きくアピールし、併せて国内の多方面の関係分野の研究者の参画を促して交流を図る絶好の機会となり、我が国の地図学に関する研究を一層發展させる契機となることが期待されます。会期中には、国際地図展、および国際子ども地図展が併催されることになっており、専門分野のみならず広く一般市民も、最先端の地図の表現技術や諸外国の地図文化に接することができます。メイン会場となる日本科学未来館は、ジオコスモスをはじめとする地図関連の常設展示が行われており、過去にも G 空間 EXPO の会場となるなど、地図・地理空間情報の先端的な学術と技術を紹介するのに最適な場所といえます。

また、地図学に関する市民公開講座やアウトリーチ活動として、「地図とアート」、「地図の日本文化」、「外国人に分かる地図」、「最新のデジタル地図を使う」などのテーマで開催される予定です。地図や地理空間情報に関する技術や研究が身近な生活の中でどのような効果を発揮しているのか、今後どのように發展し未来に役立てていくかについて、広く社会に向けて発信する絶好の機会になるはずです。

国際地図学会議の開催にあたっては、もとより地道な学会運営を行うことを肝に銘じておりますが、2019 年大会の翌年に開催される東京五輪・パラリンピックを前にして各種経費が上昇しつつあり、また消費税増税も予定されていることから、参加費のみでの財政運営がきわめて困難な状況にあります。資金面の自助努力を重ねておりますが、関連業界をはじめ本会議の趣旨にご賛同いただき、ご理解下さる方々のご支援をお願いせざるを得ない状況にあります。

つきましては、誠に恐縮ではございますが、第 29 回国際地図学会議の企画をご理解頂き、ご支援賜りたく、ここに資金寄付を謹んでお願い申し上げます。本会、趣意書をご高覧の上、ご検討頂けますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

第 29 回国際地図学会議組織委員会
組織委員長 森田 喬
事務局長 若林 芳樹
財務・募金委員長 熊木 洋太

会議の概要

1. 会議の名称とテーマ
 - 1) 会議の名称
第 29 回国際地図学会議 (The 29th International Cartographic Conference)
 - 2) 会議のテーマ
「地図づくりを、誰にもどんな事にも！」 (Mapping everything for everyone!)
2. 主催・併催機関などの名称
 - 1) 主催
第 29 回国際地図学会議組織委員会
 - 2) 共催
日本学術会議 (予定)
 - 3) 協力
独立行政法人国際観光振興機構 (予定)
(公財) 東京観光財団
 - 4) 協賛
日本地図学会
(公社) 日本地理学会
(一社) 地理情報システム学会
(公社) 東京地学協会
(一社) 人文地理学会
国土地理院 (予定)
ESRI Japan(株) (予定)
国際航業(株) (予定)
パスコ(株) (予定)
アジア航測(株) (予定)
朝日航洋(株) (予定)
(株)ゼンリン (予定)
帝国書院 (予定)
3. 開催期間
2019 年 7 月 15 日 (月) ~7 月 20 日 (土) (本会議 6 日間)
4. 開催場所
日本科学未来館
〒135-0064 東京都江東区青海 2 丁目 3 番 6 号
電話 03-3570-9151
ファックス 03-3570-9150

東京国際交流館プラザ平成
〒135-8630 東京都江東区青海 2-2-1 国際研究交流大学村内
電話 03-5564-3030
ファックス 03-5564-3033

5. 主催責任者

第29回国際地図学会議組織委員会

組織委員長 森田 喬（法政大学デザイン工学部名誉教授）
事務局長 若林 芳樹（首都大学東京都市環境学部教授）
副事務局長 有川 正俊（東京大学空間情報科学研究センター特任教授）
委員 熊木 洋太（専修大学文学部教授）
浅見 泰司（東京大学工学系研究科教授）
伊藤 香織（東京理科大学理工学部教授）
碓井 照子（奈良大学文学部名誉教授）
太田 弘（慶應普通部教諭）
岡部 篤行（青山学院大学地球社会共生学部教授）
岡本 耕平（名古屋大学環境学研究科教授）
小口 高（東京大学空間情報科学研究センター教授）
小荒井 衛（茨城大学理学部教授）
佐藤 潤（国土地理院企画部地理情報国際標準分析官）
柴崎 亮介（東京大学空間情報科学研究センター教授）
鈴木 厚志（立正大学地球環境科学部教授）
氷見山 幸夫（北海道教育大学教育学部名誉教授）
村山 祐司（筑波大学生命環境科学研究科教授）
矢野 桂司（立命館大学文学部教授）

事務局

〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル 8 階
株式会社 アイ・エス・エス 営業統括部 コンベンショングループ内
電話：03-6369-9984
ファックス：03-3453-1180
E-mail: icc2019@issjp.com

6. 日本開催の経緯

国際地図学協会（ICA）は、地図学における学術研究の振興、国際間の研究協力および交流を目的として、1959年に設立された。ICAは、各国を代表する地図・地理・地質に関する公的組織が会員となる協会で、現在、77カ国が加盟している。加盟各国に対応する国内委員会が設けられており、日本では日本学術会議 IGU 分科会の ICA 小委員会がその役割を果たしている。

協会の最高議決機関である総会は4年ごとに開催され、運営は理事会（会長1名、副会長5～7名、事務局長1名）が行っている。おもな事業としては、隔年で開催される国際地図学会議（ICC）があり、日本では1980年に第6回 ICC 大会および総会を開催した。ICCは、各国から毎回1,200名程度が参加する地図学分野で最大規模の国際学会である。ICCの参加者は高度な知識を有する研究者・公務員・技術者・専門家であり、その専門は、地図学者、地理学者、地質学者、地理情報科学者、地図製作技術者、測量士、情報研究者、情報技術者などから成り立っている。研究発表を通じて、地図学・地理情報科学研究の最新の成果を広く知らせるだけでなく、産官学の研究者間の交流を図り、研究の推進と社会に対するアピールを積極的に行ってきた。

日本学術会議 ICA 小委員会の議決に基づいて、2015年にリオデジャネイロで開催された ICC 大会の総会にて2019年の東京大会を提案し、加盟国の代表による投票の結果、39年ぶりに日本での ICC 開催が決定した。

なお、この会議の開催状況は、以下のとおりである。

開催年	開催地	参加国数	参加者数	日本人参加者
2007年（第23回）	モスクワ（ロシア）	63	1280	14
2009年（第24回）	サンチアゴ（チリ）	53	700	7

2011年(第25回)	パリ(フランス)	85	1500	21
2013年(第26回)	ドレスデン(ドイツ)	60	1100	9
2015年(第27回)	リオデジャネイロ(ブラジル)	54	800	13

7. 日本開催の目的と意義

日本の近代以降の地図製作は、国家事業としての基本図作成に始まり、世界的にみても高い精度をもつ地図とデジタル化された地理空間データが蓄積されてきた。その多くは、インターネットを通して一般市民にも公開され、国が進めているオープンデータ推進の一つの柱をなしている。特に2007年に施行された地理空間情報活用推進基本法では、地図を広く公開することにより、行政の効率化、災害対策や生活環境の改善のほか、新しいビジネスの創出が期待されている。このように、日本は世界的にみても地図の作成と利用の両面で先端的な役目を果たしてきた。こうした日本の地図作成の高度な技術は、国土地理院を中心として発展途上国の基本図作成事業の援助という形で国際貢献にも寄与している。このような環境の中、日本で国際地図学会議(ICC)を開催することは、地図・GISに関わる様々な分野の交流を深め、産官学の連携を強めていくきっかけとなることと思われる。

8. 開催計画の概要

1) 会議日程

7月15日(月)	午後	総会
7月16日(火)	終日	プレナリーセッション1~2 パラレルセッション1~4 ポスター・地図展示
	夕方	ウェルカムパーティー
7月17日(水)	終日	プレナリーセッション3~4 パラレルセッション5~8 ポスター・地図展示
7月18日(木)	終日	プレナリーセッション5~6 パラレルセッション9~12 ポスター・地図展示
7月19日(金)	終日	プレナリーセッション7~8 ポスター・地図展示 パラレルセッション13~16 ポスター・地図展示
	夕方	ガラディナー
7月20日(土)	午前	プレナリーセッション5
		総会
	午後	閉会式

2) 主要トピックス

プレナリーセッションテーマ：「地図とアート」、「地図の日本文化」、「外国人に分かる地図」、「最新のデジタル地図を使う」など

シンポジウムテーマ：アートと地図、アトラス、地図遺産、子どもと地図、災害地図、地図認知、地図学教育、総描、空間分析、空間情報、地図史、位置情報サービス(LBS)、地図デザイン、投影法、視覚障害者向け地図、インターネット利用、山岳地図、オープンソースGIS、惑星地図、標準化、センサー利用、地形図作成、地名、ユビキタスマッピング、地図利用、視覚化など

3) 参加予定者

国内 600名

海外	500名
合計	1,100名

4) 参加予定国 50ヶ国・地域

日本、アルゼンチン、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、チリ、中国、コロンビア、クロアチア、チェコ、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、インド、インドネシア、イラン、アイルランド、イスラエル、イタリア、カザフスタン、ケニア、韓国、ラトビア、リトアニア、マレーシア、メキシコ、モンゴル、オランダ、ニュージーランド、ナイジェリア、ノルウェー、パキスタン、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、南アフリカ、スペイン、スウェーデン、スイス、タイ、トルコ、ウクライナ、英国、米国

5) 会議使用言語

英語、フランス語

9. 寄附金を必要とする理由

2019年の国際地図学会議（ICC）の東京開催は、日本での地図の先進的な利用方法と理論や技術の発展を全世界の研究者に大きくアピールし、併せて国内の多方面の関係分野の研究者の参画を促して交流を図る絶好の機会となることが期待されます。とりわけ地図学は学術のみならず産業界や行政にまたがる幅広い裾野をもっておりますが、この会議の開催は、産官学の間での交流と研究の活性化に大きく寄与するものであります。ICC2019東京大会には、海外500名、国内600名、計1,100名の参加が予定され、この会議を成功させるために、準備運営等に関する総経費は79,750,000円が見込まれています。これらの諸経費は、本来参加登録費等でまかなうことが建て前でありますが、登録料を低額に抑えたいとの事由により、総額79,750,000円から、参加費等自己負担額53,500,000円、展示会・企業セミナー費6,250,000円、補助金等10,000,000円を除く不足額、10,000,000円を諸企業及び諸団体からのご援助に頼らざるを得ないのが現状です。従いまして、下記の費用を会議に協賛する関係企業等からの寄附金にて充たしたいと存じます。とくに今回の国際会議の開催に当たり、できるだけ世界各地からの多数の参加者、とくにアジアの発展途上国からの参加者や、これからの学問の発展を担う若い学生・院生等に参加してほしいと考えています。そのためにも各界からの募金をお願いすることにしました。上述の趣旨をご理解いただき、是非、ご協力をお願いする次第です。

10. 収支予算（案）

単位：千円

収支区分	金額
(収入)	
1. 自己負担金（参加登録費等）	53,500
2. 諸収入等（展示会等）	6,250
3. 補助金／助成金等	10,000
4. 寄附金等	10,000
収入合計	79,750
(支出)	
1. 会議準備費	23,229
2. 会議運営費	50,634
3. 展示会・企業セミナー等	2,068
4. 募金経費	960
5. 事後処理費	2,859
支出合計	79,750

1 1. 寄附金募集要項

- (1) 募金の名称
第 29 回国際地図学会議寄附金
- (2) 募金の目標額
10,000,000 円（総額 79,750,000 円の内）
- (3) 募金期間
2017 年（平成 29 年） 月 日～2019 年（平成 31 年）7 月 12 日
（注：会議開催日前の銀行営業日まで）
- (4) 寄附金の使途
第 29 回国際地図学会議の準備並びに運営に関する費用に充当します。
- (5) 寄附金申込先
独立行政法人国際観光振興機構コンベンション誘致部交付金担当
〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1
電話：03-6691-4850 ファックス：03-6691-8787
- (6) 寄附金振込方法
別紙のフローチャート通りとなります。
別紙申込書を国際観光振興機構にお送りください。
寄附金申込書を受領し確認次第、国際観光振興機構より寄附金申込受理書を送付いたします。寄附金申込書受理書を受領後、指定口座番号にお振込ください。
- (7) 税法上の扱い
この寄附金は、特定公益増進法人である独立行政法人国際観光振興機構への寄附金として、税法上の一般寄附金とは別途に損金算入等の優遇措置が講ぜられます。